

第14回火山噴火予知連絡会議事録

日 時 : 昭和53年10月23日(月)13時30分～17時
場 所 : 気象庁第1会議室
出席者 : 永田、横山、高木、下鶴、行武、青木、久保寺、加茂、太田、丹治(科技厅)、城野、
富村(文部省)、春山、土出(海上保安庁)、高橋、小林、渡辺、田(気象庁)、河村、
神沼(幹事)
臨時委員:清野(札幌管区気象台)
オブザーバー:齊藤(国土庁)、熊谷(国立防災科学技術センター)、
三宅(気象庁以下同じ)、久本、田中
庶 務:大野、吉留、齊藤、小宮

[議事に先立ち、永田会長から委員異動について次のとおり紹介があった。国土地理院地殻調査部調査課長佐藤裕氏から春山仁氏]

1. 第13回連絡会議事録(案)並びに昭和53.9.8幹事会議事録(案)は一部字句を訂正し承認された。
2. 最近の火山活動

2.1 有珠山

横山委員:震央・震源分布、噴火活動度、噴火後の地震減少例、火口原内の地殻変動、辺長測定、水平変動、傾斜変化、上下変動、水道管破裂状況、空中赤外映像、火口原内火口分布、活動区分、火山灰の厚さ、本質物質の含有度合い等について

清野臨時委員:日ごとの地震回数、地震エネルギー等について

横山委員:有珠山の噴火活動の予測に関連して

太田委員:SO₂について

高木委員:地震放出エネルギー等について

河村委員:地磁気観測報告

討 論

下鶴委員:四十三山の傾斜変化と外輪山の噴気との関連は?

横山委員:活動との関連は特に認めない。

加茂委員:深い地震はないのか。

横山委員:2Km止まりである。銀沼で激しい噴火活動をすると有珠山全体で外輪山の外も含めて地震が止まる。

永田会長:活動はダウンしているが、まだ続いている。

横山委員:I火口、銀沼火口は終息したとの説もある。

久保寺委員:外輪壁の高温部が噴火すれば被害は大きい。

横山委員:オガリ山、新山を結ぶ大断層の縁辺があくまで本命だ。

永田会長:専門の各先生の意見を伺いたい。

- 高木委員：10月の活動を見定める必要がある。
- 下鶴委員：問題は表面現象だけである。
- 久保寺委員：銀沼より他の火口の警戒が必要である。
- 加茂委員：下からの補給がないので終息に近づいていると思う。
- 太田委員：SO₂ からみて残留ガスはなくなりつつある。
- 清野臨時委員：地震活動と噴火の関係には表面の条件がからんで複雑である。
- 河村委員：過去の事例からみて、鎮静してよい時期にさしかかっている。
- 田委員代理：ためこむ能力はない。
- 渡辺委員：どこに飛び火するかが問題だ。
- 高橋委員：末期現象的に散発するだろう。
- 小林委員：赤熱岩塊を放出するかどうかは降灰現象よりも重要なポイントである。
- 横山委員：ポイント、ポイントをつぶしていけばやがて終る。I火口は2か月半でつぶれた。
銀沼火口底の一部には水がたまっている。N火口の活動は赤外映像からみる限り発展しにくい。外輪北西部は沸騰点だがシビヤには考えない。慎重にみているが、よほど根拠がない限り、口に出せることではない。
- 清野臨時委員：N火口が出たのが気かりである。
- 永田会長：総合観測班をどうするか。
- 小林委員：状況の判断によるが総合観測班のみを解散してもよいと思う。
- 永田会長：一応解いてよいのではないか。
- 横山委員：迅速に対応できればよい。
- 下鶴委員：総合観測班は解散してよい。
- 高木委員：解散後はソフトの問題（情報関係）
- 永田会長：気象庁が考えてほしい。

有珠山の火山活動についての統一見解

「有珠山では5月以降現在まで小規模な噴火が発生し、特に7月中旬から9月中旬にかけて続発し、8月16日、24日及び9月12-13日の噴火では数百mの高さまで赤熱岩塊を放出するなど、表面活動は活発であった。一方、地震活動、地震エネルギーの放出率及び火口原の隆起速度は順調に減少を続けており、マグマの上昇も次第に弱まりつつある。また有珠山麓における地殻変動は東部ではほとんど停止したが、北部及び北西部ではなお続いている。

9月下旬以降噴火の間隔がやや長くなっているものの、マグマ本体が地表に接近しているため、小規模な噴火は今後も発生する可能性がある。有珠山における現地の観測は昨年噴火以降順次整備されたので、この観測体制をもって、今後とも火山活動の監視を継続する。」

2.2 桜島

加茂委員：活動報告、一つ一つの爆発は大きくはないのだが、風の影響で被害が大きくなった。

大野（気象庁）：活動報告

河村委員：地磁気観測報告

桜島の火山活動についての統一見解

「今年2月以降の桜島の活動はひきつづき高い水準で経過している。その後も爆発による被害が発生し、特に4月以降は連続噴煙活動が顕著となり、8月の降灰量が昭和30年以来最大となった。これは前回の統一見解でも述べたとおり、マグマ等の火山物質が容易に移動上昇し、火口より放出されやすくなっているためである。

桜島が大規模な活動に移行する兆候は依然として認められないが、今後とも山麓部に噴石等を落とさせる爆発や多量の降灰を伴う活動が繰返し続くものと判断される。」

2.3 草津白根山

河村委員：磁気測量（全磁力）報告

2.4 硫黄島

高橋委員：観測報告

2.5 霧島山

下鶴委員：高千穂峯、新燃岳、加久藤カルデラの地震活動

2.6 阿蘇山

久保寺委員：震源分布

3. 噴火規模について

次回で検討

4. 連絡会庶務報告

(1) 国土地理院発行地図を挿入図として使用するときは、コメントをつけるだけでよかった。

(2) 第2次測審建議の内容について（渡辺委員）

5. 協議事項

(1) 次回連絡会開催期日

昭和54年2月8日（木）を予定

6. その他

(1) ユネスコ出席報告（噴火災害）…下鶴委員

(2) 有珠火口原8ミリシネ上映……気象庁火山機動観測班

[17:00～17:30 記者会見 気象庁記者室]